

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平2-85422

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)7月4日

G 02 F 1/1335  
G 09 F 9/00

5 3 0  
3 1 6 B

8106-2H  
6422-5C

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑮ 考案の名称 反射型液晶表示装置

⑯ 実 願 平1-70436

⑰ 出 願 平1(1989)6月16日

優先権主張 ⑱ 昭63(1988)9月14日 ⑲ 日本(JP) ⑳ 実願 昭63-119881

㉑ 考 案 者	今 村 政 昭	東京都武蔵野市中町2丁目9番32号	横河電機株式会社内
㉒ 考 案 者	大 塚 賢 二	東京都武蔵野市中町2丁目9番32号	横河電機株式会社内
㉓ 考 案 者	岩 本 茂 樹	東京都武蔵野市中町2丁目9番32号	横河電機株式会社内
㉔ 出 願 人	横 河 電 機 株 式 有 限 公 司	東京都武蔵野市中町2丁目9番32号	
㉕ 代 理 人	弁 理 士 小 沢 信 助		

㉖ 実用新案登録請求の範囲

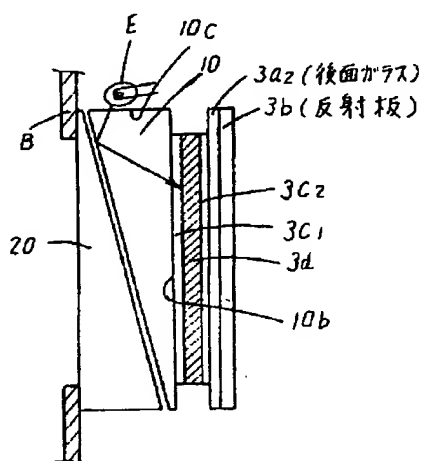
- (1) 前記透明基板と後面透明基板を所定の間隔で保持し、前記後面透明基板の背面に反射板が配置され、前記前面透明基板と前記後面透明基板の内側に液晶が封入される反射型液晶表示装置において、前記前面透明基板を、前面が傾斜面で後面を前記後面透明基板の面に平行な平面から成るプリズム形状で、該プリズム形状の底面部分に光源が配置された液晶用前面透明基板部としたことを特徴とする反射型液晶表示装置。
- (2) 請求項1の反射型液晶表示装置において、前記後面透明基板を反射板を兼ねたセラミック基板として、該セラミック基板の裏面にヒータアップ機能を取付けたことを特徴とする反射型液晶表示装置。

図面の簡単な説明

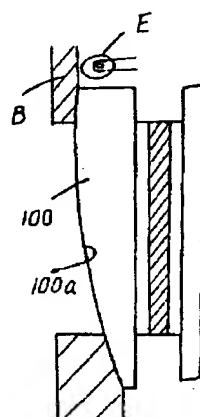
第1図は本考案の請求項1の具体的実施例である反射型液晶表示装置の概要断面図、第2図乃至第4図はその他の実施例の説明に供する図(特に第4図は請求項2の説明に供する図でもある)、第5図はウエッジライト構造の照明装置を具備する計器の表示部分構成図、第6図は第5図のウエッジライト構造の照明装置を反射型液晶表示装置として用いた場合の図、第7図は従来技術の問題点に供する図である。

1……第1楔体、2……第2楔体、E……光源、3……反射型液晶表示装置、10、100、1000……液晶用前面ガラス部、4、40、400……ヒータ。

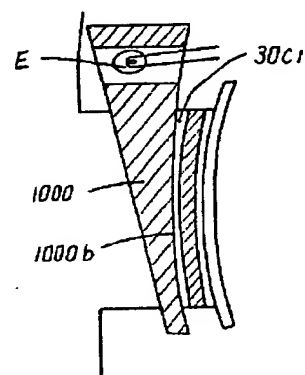
第 1 図



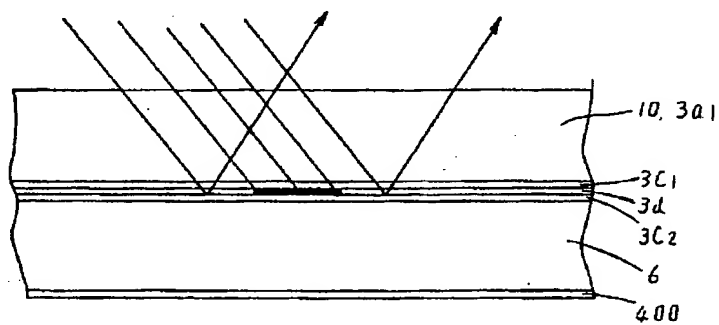
第 2 図



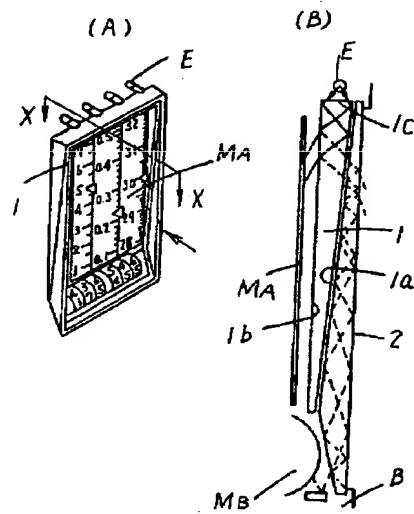
第 3 図



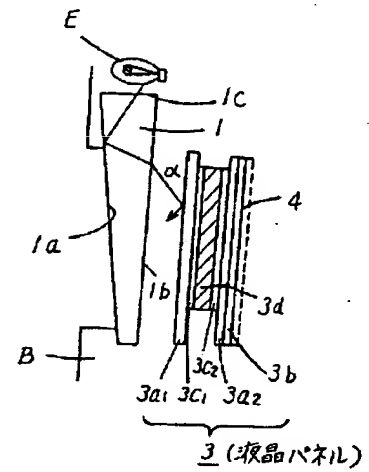
第 4 図



第 5 図



第 6 図



第 7 図

